

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(12月22日～12月28日)

2019年1月8日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- プーチン露大統領との首脳会談(12/25 モスクワ)
- シリアノフ露財務大臣の発言:ロシアとベラルーシは、政府間作業部会を設置する。(12/25)
- 国防省がIT中隊を新設(12/26)

内政・外交

【ルカシェンコ大統領動向】

●国内電力システムの信頼性向上措置に係る大統領令に署名(12/22)

今次大統領令では、電力消費のピーク時と最少時の調整、(国内に建設予定の)原発が事故により停止した場合に備えた電力源の建造等のための措置が定められている。

(12/23, ベラパン通信)

●日本の天皇陛下に祝電を発出(12/23, ミンスク)

祝電の中で大統領は、両国間の外交関係が結ばれて四半世紀以上、(両国は)実り多い二国間協力の発展において大いなる道のりを歩んできた旨指摘し、経済・人文及びその他の領域における相互協力の大きな潜在力は、双方が共に努力することにより、最大限に実現できると確信している旨表明。

(12/23, 大統領公式サイト)

●対露協力に関する課題についての会議を開催(12/24, ミンスク)

ルカシェンコ大統領は、半年前にロシアとの間で、首脳レベルで優先的方針を定めた旨指摘。「連合国家の発展のための今後5年間の行動計画が策定されているが、その策定の過程で、連合国家のより強い統合に関するベラルーシからの提案の多くは支持されなかった」と強調。また、2017年にプーチン大統領との間で、2018年中にロシアからのガス輸入価格と原油に対するロシアの税改革の問題を解決するこ

とで合意していたにも関わらず、同合意が守られていないと指摘。

(12/24, 大統領公式サイト)

●プーチン露大統領との首脳会談(12/25, モスクワ)

会談では、石油ガスセクターへの課税分野における変更に係る予定や、ロシアとベラルーシのガス及びエネルギー資源の価格に関する共通の行動について議論された。また両首脳は、両国関係の懸案を解決すべく、2018年中に再度会談を行うことで合意。

(12/25, 大統領公式サイト)

【内政】

●政府が2019年の上半期の業務計画を承認(12/27)

計画によると、(定期開催される)閣僚会議幹部会では、石油加工及び石油化学分野の近代化、国家プログラムの実行状況、不必要な(産業)中間部門の撤廃等が取り上げられる。この他、就業問題、住宅公共サービスの効率性向上、各種機関への国家による助成、活用されていない或いは活用が不十分な資産の2019年中の経済活動への組み入れ、麻薬の不法流通問題、春季の農作業、地方の道路改修に関する大統領の指示などが重要課題となる。

(12/27, 国営ベルタ通信)

【外交】

●シリアノフ露財務大臣の発言：ロシアとベラルーシは、政府間作業部会を設置する。(12/25, モスクワ)
モスクワで行われたベラルーシ・ロシア首脳会談の後、シリアノフ大臣が「同作業部会は、統合の推進と両国間の焦眉の問題解決のための提案策定を行う」旨発現。
(12/25, 国営ベルタ通信)

●露・ベラルーシ間の懸案解決のための政府間作業部会に関するオレシキン露経済発展大臣の発言 (12/27, モスクワ)
同作業部会のロシア側の代表を務めることになるオレシキン大臣は、同作業部会はロシア・ベラルーシの統合に関する条約に基づいて設置され、ベラルーシ側の代表はクルトイ経済大臣が務めると発言。現時点でベラルーシ側から同作業部会の政府代表任命について正式発表はない。
(12/27, ベラパン通信)

【治安・軍事】

●国防省発表：IT 中隊を新設 (12/26, ミンスク)
軍事アカデミー内に、新設された IT 中隊のための設備が開設された。開所式典には、ラフコフ国防大臣、ベラルーシ軍総参謀長を務めるペロコネフ第一国防次官、ヤンチェフスキー・ハイテクパーク所長が出席。同中隊の重要任務としては、軍事行動の定式化、ナビゲーション確保、自動操縦と電波探知システムの開発が挙げられる。第一回目の IT 中隊の隊員選抜の結果、8名以上が入隊した。また、同隊の任務遂行のため、IT 分野の高度な教育を受けた40名の軍人が選ばれた。
ラフコフ大臣は、ベラルーシ軍に情報・サイバーセキュリティに特化した中隊を設立することについては、2018年2月にTV局のインタビューで明かしていた。
(12/26 国防省公式サイト, 12/27 ベラパン通信)

【経済】

【国内経済】

●欧州復興開発銀行がベラルーシ国内経済見通しを発表 (12/28, ミンスク)
2018年のGDP成長率は、経済の持ち直しと前年のGDPが大きくないことから、3.1%となる見込み。2019年から2021年までのGDP成長率は1.6%-2%程度と予測。ベラルーシ中央銀行は2019年のインフレ率を5%以下に抑えることも可能であるものの、政策金利を10%に維持することがインフレリスクを高めると指摘。
(12/28, ベラパン通信)

【対外経済】

●2019年の連合国家予算は9億1930万ロシア・ルーブルの黒字の見込み
2019年の歳入は72億4500万ロシア・ルーブル、歳出は63億2570万ロシア・ルーブル見込んでおり、歳入の12.7%分の黒字を見込んでいる。
(12/27, ベラパン通信)

【統計】

●2018年1月から10月までの期間に国内の個人事業主が1.7倍に増加して3万4千人以上に。(12/28, ミンスク)
セリツカヤ課税・徴収省次官が発表。2017年10月から、個人事業主が統一税を支払うことで事業登録せずに行うことのできる事業活動が18種から30種に拡大した。個人事業主の増加により、新たに40万ベラルーシ・ルーブルが国家予算にもたらされた。
(12/28, 国営ベルタ通信)

(了)